

幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和5年1月31日

三次市立神杉小学校 瀬山 亜希子 (派遣園・所：三次市酒屋保育所)

5歳児(年長児)クラスで主に研修を行っていますが、保育所では0歳児から5歳児の子供が一緒に生活しており、全ての年齢のクラスで研修を行わせていただきました。乳児期からの育ちのつながりを実感し、育ち、学びの連続性、幼保小の円滑な接続について考えたことをお伝えします。

1 2学期の研修内容

- (1) 園内研修
 - ・保育補助、園外保育引率補助
 - ・学びの研修(2歳児クラス)参観, カンファレンス
- (2) 園外研修
 - ・幼児教育理解に係る研修会
 - ・接続に係る研修会
 - ・幼児教育長期派遣研修報告会
 - ・広島県乳幼児期の教育・保育研究協議会
 - ・幼保小連携授業研修会(酒河小学校)
 - ・幼保小連携推進協議会
 - ・所属校に入学してくる園児の実態把握(神杉保育所)
 - ・学びの研修(神杉保育所5歳児クラス)参観, カンファレンス

2 研修を通して

育ちや学びは年齢や遊び、教科で区切られるのではなく、つながっており、領域や教科ではっきり分けることはできませんが、その中から、主に「人間関係」「言葉」(保育所保育指針) 国語科(小学校学習指導要領)のねらい、目標及び内容を取り上げて幼保小接続について考えました。

～幼児教育と小学校教育～

遊びを中心とした生活を通して総合的に資質・能力を育む幼児教育と各教科の内容を教科書等の教材を用いて学習する小学校教育の違いから子供、保護者、園、所、学校の先生達の不安や疑問、誤解が生まれているのではないかと考えています。

小学校学習指導要領 国語科 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

小学校は保育所と違うところ!大きな壁を乗り越えねば!

誤解

文字が読めない。小学校で大丈夫かな。練習が必要?
入学してすぐに文字の読み書きの学習が始まるの?
遊んでいただけ?小学校で初めて文字、読み書きに触れるのかな?
ひらがなが書けない子は言葉、文字に興味がない?

不安

疑問

幼児教育と小学校教育の違いはある。でもつながっている!

読み書きの練習ではなく、遊びや生活の中で文字に親しみ、感覚を育てている。
1年生では、「話す」「聞く」「絵本の読み語り」「言葉遊び」の単元も多くあり、「読む」「書く」とあわせて学習する。
乳幼児期には遊び、生活、いろいろな環境を通して育ち、学んでいる。

安心

理解

保育所保育指針 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ経験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

「言葉による伝え合い」

保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

「豊かな感性と表現」

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

～乳幼児期からの育ちや学びのつながり～

育ちや学びが年齢で区切られるのではなく、つながっていると実感した子供たちの様子を紹介します。

小学校国語科 第1学年及び第2学年目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

4月 (光村図書)
「おはなしたのしいな」「あつまってはなそう」「えんぴつとなかよし」「どうぞよろしく」「うたにあわせてあいうえお」等
生活科、特別活動、道徳の時間等と関連付けて行う。

保育所では、話す練習、書く練習ではなく、子供の「伝えたい」「書きたい」「読みたい」「楽しい」気持ち、興味に沿った遊び、生活を通して言葉に親しんでいる。

乳幼児期から育まれた資質・能力を踏まえて、小学校でも、身近な人、もの、教材等、いろいろなものと関わりながら学ぶ。各教科等合科的、関連的に 各教科学年間系統的・発展的に

3歳以上児

「言葉」経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。



友達との会話、やり取りを楽しむ。



お話の世界に入り込む。



「すたーと」「しんかんせん」と書きたい。ひらがな表や本を見ながら書く。



友達と絵本を見る。自分で読む。一緒に読む。

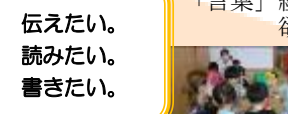


当番の挨拶や楽しかったことを発表する。友達の話聞く。


自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。「環境」身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

1歳以上3歳未満児

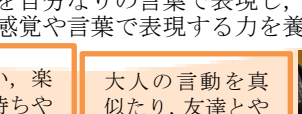
「言葉」経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。




伝えたい。読みたい。書きたい。



うれしい、楽しい気持ちや要求を相手に伝える。



大人の言動を真似たり、友達とやり取りをしたりしてごっこ遊びを楽しむ。



みんなでお話を聞く。手遊び、言葉遊びをする。

保育者を囲んで友達とも関わって遊ぶ。

言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。

乳児

「身近な人と気持ちが通じ合う」受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。



保育士の語りかけに答える。思いを表現する。



名前と呼ばれて反応する。



保育士、友達と絵本を読む、見る。

体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。

話したい。聞きたい。楽しい。

大好きな先生と一緒に。安心できる場

3 まとめ

国語科だけではなく、子供たちの育ちは、乳幼児期から、小学校、その後の学びにつながっています。子供たち自身が身近な人、もの、ことと関わり、育ちや学びを実感しながら、主体的に自己を発揮するための連携、授業づくりについて考えていきたいと思っています。

〈乳幼児教育支援センターより〉

幼児教育は、いわゆる早期教育や小学校教育の前倒しではなく、遊びを中心として、頭も心も体も動かして主体的に様々な対象と直接関わりながら、総合的な学びを行っています。このような具体的な事例による対話を通じて、園・所等と小学校が相互理解を深めていくことが大切です。